

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190900090		
法人名	医療法人 佳和会		
事業所名	グループホーム わきあいあい		
所在地	埼玉県久喜市栗原296番地3		
自己評価作成日	令和1年6月22日	評価結果市町村受理日	令和1年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9
訪問調査日	令和1年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人が自分らしく過ごし、安心した生活を送ることができるようにご家族とのコミュニケーションをもち、尊厳を持って支援させていただきます。職員も研修などに参加しスキルアップに努め、入居者様の心の声を聴ける安全な介護をめざし日々努力いたします。入居者様と職員が共に悩み共に笑い、課題を共有しながら一日一日を大切に、穏やかに過ごして頂ける様に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 避難訓練は職員全員が経験できるよう3日に分けて行っています。避難経路と所要時間の確認に注力しており、毎回の経験を検討しながら進めています。入念な安全対策に本ホームの責任感・使命感を理解することができます。
- 食器洗い等できることについては利用者に担ってもらうなど生活の中で役割をもてるよう努めています。職員の明るさと関わりの深さが利用者の意欲を引き出しています。
- 管理職は、安定した運営がなされるには職員の連携が不可欠であり、職員の助け合いが重要であることを認識しています。ケア方法等を話し合うリビング会議を中心に職員のみとまりを形成できるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「皆様の今と尊厳を大切にさせていただきます」を理念にしており、玄関正面と引き継ぎのばに掲げ、職員が意識するように取り組んでいます。	事業所内の掲示とホームページ・パンフレットへの掲載により理念の周知にあたっている。職員の助け合いをもって明るく・安定したホームの運営にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆さまとの交流を継続できるように地域の清掃行事に参加したり、挨拶など声を掛けさせていただいております。	回覧板の閲覧等を通して地域の情報を得ている。催し等に声をかけてもらいながら近隣との親睦を深めるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が研修に参加し学んだ事を運営推進会議のテーマとして話し合い、認知症への理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して下さる皆様にはその都度状況を報告し行政の方々との意見交換をしており、サービスの向上に約立っています。	地域包括支援センター、行政等を招待し、開催している。家族の出席も多く、報告・意見交換等がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の面での疑問点や災害対策の対応など数々の不明点や質問などに丁寧に説明して頂き協力していただきます。	行政の指導等を踏まえ、適正な運営となるよう努めている。運営に関する相談にもものってもらうなど関係性を築けてきたことにホームの成長と定着を認識している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を作り、指針を基に身体拘束ゼロを目標に職員と一緒に取り組んでいます。現在は拘束を必要とする入居者様はいません。	身体拘束廃止委員会での検討、職員への研修がなされており、身体拘束をしないケアに対する共通認識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束の研修や会議の時に拘束と虐待との因果関係がある為話し合いをしておりますが、入居者様への尊厳を大切にできるように努める事を職員と共に誓っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については司法に係わる関係者の協力を頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書全部を説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事に参加して頂き要望や意見を聞き、その都度対応させて頂いております。中には入居者様や職員全員、他のご家族を集めて自分の想いを話されるご家族もいますので、常に慎重に対応させて頂いております。	運営推進会議への参加、面会等時にコミュニケーションを図っている。本評価に伴う家族アンケートでも職員の明るさやケアへの感謝の言葉が寄せられている。	ルールやホームでできることなどについてツールの設定等を通して入居時の説明を詳細にしていくことを課題としており、進捗を図ることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や連絡帳を利用し、時には職員と直接話をしたり、時には上席の者にも伝え情報を共有して対応しております。	月に1回のリビング会議においては利用者個々の状況を話し合い、情報共有の場としている。ケア方法の確認など実務に直結した話し合いがなされている。	記録の仕方・レクリエーションの多様化・投薬の留意等多様な研修を通して職員の研鑽に努めることを目標としている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働水準職場環境について職員との話し合いの時間を持ち、同じ市内の施設の交流の中で情報を交換させていただいたものを上席に伝え、整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を促し、体調の確認や勤務要請をして参加しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ市内の同業者や関連会社との交流を継続させていただき、新しく開設した業者との交流も増えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様、ご家族、ケアマネジャー、職員間での会話の時間大切にし、情報の共有は出ています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の実調や面談を通して得た情報を基にごほんにんやご家族の意向を踏まえ信頼関係を構築していけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の実調や面談などで得た情報を基に、ご本人やご家族の意向を踏まえたサービス内容を提供しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人とご家族が納得した上で、残機能の維持と安全で無理なく職員と共に安心できる毎日を過ごせるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙は手書きで一ヶ月の様子をお知らせし、遠方の方へは電話で話して頂いたり、手紙を書くのを手伝ったり、面会に来られる方には少しでも会話の時間を持って頂いたり、時には散歩も一緒に行く事もあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前生活していた時に愛用されていたものを居室に置き利用させていただいたり、ご家族との写真を飾ったり、入居者様により外出される方もおります。	図書館や買い物など習慣や嗜好を継続できるよう努めている。また外出等家族にも協力してもらうことで関係性の維持を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中の過ごし方は個々に違いがありますが、全員での体操の回数を増やしたり、お茶の時間の回数を増やしたり、制作レクやスポーツのテレビ観戦など全員が参加できる時間を増やしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	5月に退所された利用者様のご家族への相談や協力をしながら、ご本人への様態の確認など事業所間でのやり取りを継続中です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の些細な言葉や行動の変化、体調の変化などを職員間で情報を共有し、ご本人に適した対応を探りご家族の了承の上支援させて頂いております。	声かけや日々の生活の様子を見ながら利用者の意向や意思の確認に努めている。自立と促しのバランスについては今後の課題として認識している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実調や面談内容を基に近況の様態をカンファレンスし、ケアマネジャーや職員間での情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録には、バイタル測定のカラムと特記事項のカラムがあり、毎日の体調面や精神面の変化、主治医からの意見等が一覧で出来るようにしております。 発熱等で体調が悪化している時は特別バイタル表にて時間ごとの様態と対応を記入しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングやケアカンファレンスなどで、注意点と留意点を話し合い、ご家族とも検討や確認をしております。	サービス担当者会議等を経てケアプランの策定がなされている。留意事項を記載し、ケアプランの目標を意識するよう指導にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のモニタリングやケアカンファレンス、食委員会議で注意点と留意点を話し合い、ご家族とも検討や確認をしておぼんにんとご家族の意向を踏まえたサービス計画を作成し実施しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画は3～6ヶ月に一度見直しておりますが、ご家族の要望やご本人の様態に変化が見られた場合は随時変更させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に図書館、ボランティア(3グループ)近所のお店での買い物など、地域の協力を得ながら出来るだけ変化のある生活をして頂ける様にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月一回の検診と薬の処方、週一回の訪問歯科診療を適切に対応しております。	法人内クリニックによる往診により健康管理がなされている。随時の通院等もなされており、緊密な関係を利した対応が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護、介護支援専門員が看護師なので、入居者の様態に応じた意見や情報を共有し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院中はご家族への連絡を密にとりご本人との面会や担当看護師、ソーシャルワーカーにお会いするなどして様態に応じて円滑な関係を築くように努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	様態の急変、緊急対応などは随時主治医か、看護師が対応できる連携が来ています。	終末期の支援について同意を得ており、方針の共有を図っている。医師からのアドバイスを基に利用者一人ひとりに適した対応を図るよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを参考に会議などで確認しています。職員が見やすい棚の横に、申し送りの場所においております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練とマニュアルの研修をしており、地域との連携も少しずつですが築いています。	避難訓練は職員全員が経験できるよう3日に分けて行っている。避難経路と所要時間の確認に注力しており、毎回の経験を検討しながら進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい生活を送れるように、尊敬と尊厳を大切に、人生の先輩として尊敬の気持ちで接するようにここ掛けています。	声かけについては、利用者を尊重しつつも自然かつ丁寧に行うよう努めている。また居室で自由に過ごしたい方の意思を尊重し、思いの生活ができるよう支援にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が今何をしたいか、何を求めているかを確認し、想いや希望を聞くことにより、自己決定して頂きます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のタイムスケジュールを優先することなく、本人のペースに一人一人のペースに合わせメリハリのある生活をして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洋服や入浴後の洋服を選んで頂いたり整容をして頂いております。洗濯干しや片付け、着替えなどは職員と一緒に頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や盛り付け、配膳、下膳、食器洗いは声掛けにてできる事を入居者が分担任して頂いております。誕生会や行事には皆さんの希望を聞き楽しんでおります。最近では鉄板焼きが好評でした。	食器洗い等できることについては利用者に担ってもらうなど生活の中で役割をもてるよう努めている。利用者の状態や記録を見ながら一人ひとりへの配慮と支援にあたっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給に関してはバイタル表を確認しなから補給し、糖尿病の方には野菜を一度湯でこぼして調理し、食が進まない方には食べやすい方法で提供をするなど、状態に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを必ず行い、義歯の方や自分で出来ないかたは職員が介助し、スポンジで口腔内の汚れを取っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツを使わないようにバイタル表で確認し、時間を見てはいせつの誘導をしています。夜間帯はポータブルトイレも利用しながら本人の意思で排泄して頂くように努めています。	排せつのタイミングや装具についてはリビング会議等にて検討している。試行錯誤と検証を繰り返し、一人ひとりに合った支援を協議・検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ばいたるひょうで確認しながら、牛乳やヨーグルトなどを提供させて頂き本人の力で排便した頂くように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴ですが、朝に本人の希望を聞き時間や順番などを確認し実施しています。体調と清潔保持の為連日入浴される方もいます。	体調への考慮、職員体制の確保等安全な入浴実施が心掛けられている。利用者の状態にあわせた入浴方法にて清潔の保持にあっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡に関してはご本人の希望や体調により居室化フロアのソファで休んで頂いています。夜間帯もその日の本人の希望により休む時間が異なりますが、殆どの方が良民されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服薬法に沿った約票を作り、セット後、服薬前後の確認を職員2名で確認し、良く票をチェックし誤認防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな方、塗り絵の好きな方、折り紙が得意な方などそれぞれですが、職員がそばにいて一緒に行っています。天気や体調を確認し散歩や買い物に出掛けております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や図書館には定期的に行っております。野外業はご家族をお誘いしていただいております。入居者により定期的な軽食喫茶でじかんを過ごす事もあります。	花見等の行事を通じて入居者全員での外出が実現している。車両の使用、雰囲気を楽しめる工夫等により利用者の楽しみが増えるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を確認し見合った金額を渡しお会計をしてもらい、必ず職員と一緒にいて会計の様子を確認しています。 中には本人が管理できる方もいらっしゃいますが、通常家族が確認の上お預かりしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が遠方の方には手紙を書いて職員がポストに投函したり、たまには電話で話して頂いたりすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	マツ割の田畑を見て季節を感じたり、隣の花畑を見て綺麗な色に感動したり、窓から入る風と差し込む光も感じられます。居室や共有の空間も毎日入居者と職員が掃除をしているので、心地よいと思います。	ホームは清潔感にあふれており、利用者の手伝ってもらいながら室内の清掃やゴミ捨て等がなされている。廊下・リビングともに十分なスペースがあり、安全に移動できる動線が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有するスペースにはテーブル席とソファ席があり、ご本人が好きなところで過ごせるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた家具などを使用させて頂いたり、家族と相談し個性と利用性に合わせ、自宅にいた時と変わらない雰囲気作りを心掛けています。	テレビ等の家具、写真や飾りなど利用者の個性ある居室となっている。共同生活と個人の嗜好のバランスをとりながら暮らせるようサポートにあたっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設は平屋のユニットでフロアから共有スペースが見渡せ、全居室のドアも見え、物音も聞こえます。 入居者が掃除、洗濯等日常生活動作をしていると職員が近位置で見守り、一部介助が出来ます。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	市の担当者と連絡を密にとり、運営推進会議の参加や介護保険法改正の情報入手へのご協力を得たい。	運営推進会議への参加のご協力をお願いし、介護法の改正や行政の取り組み等の情報をお聞きしたり、介護法を把握した支援を行う。	推進会議へ出席していただき、当事業所の支援への取り組み方を知っていただき、話し合いの中からより良い支援の仕方などを参考にしていきたい。	12ヶ月
2	15・10	訪問して下さるご家族や遠方に住まわれているご家族とのコミュニケーションを多くしたい。	行事や出来事などをご家族に知らせ、参加へのご案内と様態や状況を把握して頂き、情報を共有することで、ご家族との交流を深め、スムーズな支援を継続していきたい。	ご家族の都合によるのではっきりとした日時は言えませんがご家族が来られた時、連絡があった時などの対応を徹底し、毎月のお便りを活用し、ご家族にご本人の状況を知らせ、支援に関する問題点や課題などを理解していただき、意思の疎通が取れた支援をしていきたい。	12ヶ月
3	3	地域の役員やご近所の方々との交流を継続していきたい。	運営推進会議への参加のご協力をお願いしたり、行事に参加していただく。災害時のご協力を得たい。	日常からの声掛けやご挨拶を継続し、町内の行事への参加をしていく。施設の運営推進会議や避難訓練などに参加をお願いする。	12ヶ月
4	6・7	身体的拘束や虐待委員会を継続し、研修会を継続する。	身体的拘束や虐待のない支援を継続し、職員全員が入居者へ尊厳をもって日々の暮らしを大切にする支援を心掛ける。	身体的拘束委員会を継続し、職員との研修会を開催したり、入居者にとって一番良い支援の在り方、安全で安心できる支援、拘束や虐待のない支援について職員会議の場でも随時話し合っていきたい。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。